

# 令和3年度東与賀町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、圃場整備・灌漑排水事業・大規模共同乾燥調製施設等の整備が進んでおり、「夢しずく」の特別栽培米をはじめ、「さがびより」、「ヒヨクモチ」、また大豆を基幹作物とし、麦による二毛作、露地野菜など2期作での生産に取り組んできた。

また、園芸作物については、新規就農者を中心に新規参入があっており、「さが園芸888億円推進事業」を活用した新規の施設も増加している。

農地の集積・集約化については、認定農業者、集落営農組織、農事組合法人を中心に集積が進んでいる状況である。

しかしながら、転作作物の中心である大豆において、近年の自然災害による発芽不良や、難防除雑草等により生産量が安定していないことが課題となっている。また、既存の園芸農家の高齢化により園芸農家数が減少していることも課題である。今後は、転作作物の安定生産や園芸農家の確保、需要に応じた作物の生産拡大が必要となっている。

## 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

転作作物の中心である大豆においては、豪雨・台風等の自然災害による発芽不良や生育不良により近年収量が低迷している。そのため、これまで取り組んできた大豆不耕起播種の推進に加え、額縁明渠による排水対策のメニューの新設を行う。

また、難防除雑草（ホオズキ）の薬剤防除を併せて行うことで、安定した生産体制の構築を目指す。

## 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

これまでの米・麦・大豆を中心とした1年2期作の生産を引き続き行っていくが、「生産のめやす」に基づいた需要に応じた米の生産を推進する。また、転作作物の大豆の栽培技術を高めるとともに、低コスト生産及び省力的な管理が可能な作物の導入についても検討していく。

水田利用状況の点検については、過去3年の作付けを営農計画書等により確認を行い、水稻を組み入れない圃場があった場合には、耕作者への今後の作付け見込みの聞き取りを行う。上記を踏まえ、耕作者の意見に沿った畑地化支援に努める。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

令和2年産の作付実績については、「夢しずく」が377ha、「ヒノヒカリ」が3ha、「さがびより」92ha、「ヒヨクモチ」140haとなっている。

当地域においては、需要に応じた生産を基本として、今後も生産のめやすに即した作付けの推進を図っていく。佐賀県のブランド米である「夢しずく」や「さがびより」、もち米の「ヒヨクモチ」を中心に、安定的な生産・供給体制の推進を図るとともに、安全・安心で良質な米づくりを目指し、多様な消費者ニーズに応えられる産地となれるような生産体制づくりを進めていく。

### (2) 非主食用米

#### ア WCS 用稲

地域の実需者との契約に基づき、近隣圃場へ影響が出ないように肥培管理及び防除等の栽培管理の徹底、並びに大豆のブロックローテーションを妨げないような取り組みを基本として、需要に応じた生産を維持する。

#### オ 加工用米

現在のところ作付実績はないものの、主食用米の需要が減少していることから、転作の一環として大豆だけでなく非主食用米への転換についても状況を見ながら検討していくこととする。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、用途に応じた良質で均質な麦の安定供給を目指し、担い手を中心に作付けがなされるよう生産体制の強化を図る。二毛作として麦の作付けに取り組む場合についても産地交付金から支援を行う。また、環境に配慮した農業を行うため、麦わらの有効活用を推進していく。

大豆については、主食用米の需要減が見込まれる中、地域における転作作物の中心に位置づけ、産地交付金を活用しながら団地化や不耕起播種、額縁明渠等の導入・拡大を推進し、併せて難防除雑草対策を徹底することで作付拡大と収量・品質の向上を目指す。

### (4) 高収益作物

地産地消に取り組み、食料自給率向上のため、地域密着型販路を拡大していく。また、農業所得の向上を図るため、法人組織等を中心にタマネギなどの露地野菜の新規導入・作付拡大を推進する。また、新規参入者については、「さが園芸888億円推進事業」と連携して支援を行う。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	613	587	580
WCS用稲	1	1	1
加工用米	0	0	3
麦	831	831	831
大豆	281	309	316
飼料作物	5	5	5
その他地域振興作物	51	51	59
野菜 ・いちご ・きゅうり ・なす ・トマト ・アスパラガス ・花き・花木 ・露地野菜	13 1 3 1 6 4 23	13 1 3 1 6 4 23	13 2 3 1 6 4 30
畑地化	0	0	0.1

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	
				前年度（実績）	目標値
1	大豆	大豆団地化助成 （基幹）	・大豆団地化面積 ・団地化による大豆の集積率	(2年度) 269.6ha (2年度) 95.3%	(5年度) 316ha (5年度) 98%
2 3	麦	麦二毛作助成（残額 払い・一括払い） （二毛作）	・麦の二毛作作付面積 ・水田利用率	(2年度) 831ha (2年度) 184%	(5年度) 831ha (5年度) 184%
4	飼料作物	飼料作物二毛作助成 （二毛作）	・飼料作物の二毛作作付面積 ・水田利用率	(2年度) 4ha (2年度) 180.2%	(5年度) 5ha (5年度) 181%
5	大豆	大豆不耕起播種（基 幹）	・大豆不耕起播種 取組面積	(2年度) 0ha	(5年度) 24ha
6	大豆	大豆額縁明渠（基 幹）	・大豆額縁明渠取 組面積	(2年度) 0ha	(5年度) 15.8ha
7	高収益作物	露地野菜（土地利用 型）作付拡大助成 （基幹・二毛作）	・露地野菜の作付 拡大面積	(2年度) 0ha	(5年度) 3ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。